

おかしいせきが
続いたら...

マイコプラズマ肺炎かも？

きをつけて！

マイコプラズマ肺炎は、小さい子どもより小学生以上の子どもに多くおこります。

一般のかぜで処方される抗生剤が効かないので、注意が必要です。

主な症状

のどの痛み
鼻水・鼻づまり
37℃程度の微熱から 39℃以上の高熱
せき、痰のからむせき
ぜんそくがあるとぜんそくの悪化
呼吸がしにくい呼吸困難

感染と潜伏期間

潜伏期間は 1～3 週間ぐらいで、4 週間におよぶこともあり、秋から冬にかけて小流行することがたびたびあります。
痰や唾液、せきなどで人にうつる飛沫感染です。
大人の場合は何度もかかることで多少の抵抗力がつかますが、免疫を長くは維持しにくいのが特徴です。

乳幼児が感染した場合はかぜ程度で済みますが、学童期になると肺炎を起こすことがあります。
微熱でもおかしい咳が続くときは、早めに医師の診察を受けることをおすすめします。
本校でも若干名の欠席者がでています。マイコプラズマ肺炎と診断された場合は出席停止になります。